

(お知らせ)

令和3年12月24日
防衛省

国連三角パートナーシップ・プログラム (アフリカ)の実施について

国連三角パートナーシップ・プログラム(UNTPP: United Nations Triangular Partnership Programme)の一環として、令和4年1月19日から、ケニアにおいて実施されるアフリカ地域の工兵要員を対象とした重機の操作訓練に、陸上自衛官20名を派遣することとなりましたので、お知らせします。

日本は、PKOの円滑化に欠かせない施設や輸送の分野で確かな信頼を得てきており、今後とも、PKOの早期展開を支援し、質の高い活動を実現するため、平成26年9月の第1回PKOサミットにおいて、安倍総理(当時)から、重機などの装備品供与と各国要員への機材操作教育をパッケージで行っていくという貢献策を表明しました。

これを受け、平成27年以降、自衛隊は、アフリカ及びアジアにおいて、試行訓練を含めた計12回の重機操作教育訓練に延べ230名の陸上自衛官を派遣し、アフリカ、アジア及び同周辺地域の工兵要員333名に対し訓練を実施しています。

記

- 1 訓練期間: 令和4年1月19日～同年3月15日(基準)
- 2 派遣先: ケニア ナイロビ市内 人道平和支援学校(HPSS)
- 3 派遣要員: ^{のがみ}野上 ^{あきひろ}晃弘 2等陸佐 以下20名
- 4 事業内容: アフリカ地域の工兵要員に対する重機の操作や整備の教育